

奥州 蝦夷の心臓部を貫く和鉄の道

北上 (和賀) 仙人峠越



1. 北上山地 東の仙人峠 と 奥羽山脈 西の和賀仙人峠
2. 和賀仙人峠に古代蝦夷の鉄に思いをはせて
3. まだ雪深い早春 横手から北上線で和賀仙人を越えて北上(和賀)へ
 - 横手 walk & 北上線 和賀仙人越 -
 - 3.1. 横手 Walk
 - 3.2. 北上線 和賀仙人越

1. 北上山地 東の仙人峠 と 奥羽山脈 西の和賀仙人峠

北上市をセンターに北上川をはさんで東西の山地にある二つの仙人峠 東の「千人峠」と西の「和賀仙人」。そこは古代から奥州の製鉄の生産基地。北上川をはさんで丁度 対称の位置 東の北上山地と西の奥羽山脈を越える厳しい山越えの峠それぞれがそれぞれに「仙人峠」の名がある。

どちらも本当に山深い奥地であり、かつ 古代からの鉄資源の宝庫 最近まで鉱山があった。

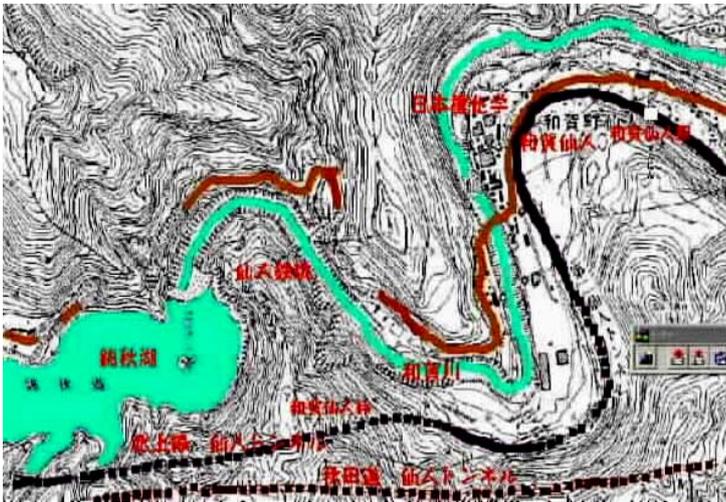
奥羽山脈と北上山地に挟まれたこの北上川流域 北上(和賀の里)・胆沢の地は蝦夷アテルイの前線基地。これより北に広がる広大な地域「奥羽」は蝦夷の勢力圏であり、ここで大和の勢力と蝦夷が対峙して幾多の攻防を繰り返した。

蝦夷の根拠地 胆沢・和賀から東へ早池峰山麓の遠野から北上山地を越えて海岸に出ると釜石。

その北上山中にある仙人峠はこの地から出る鉄鉱石(磁鉄鉱)を原料とした洋式高炉が初めて作られた地。この峠近傍から流れ出る川には「餅鉄」があり、また海岸には砂鉄。

この北上山地から釜石の海岸に至る川の地域には古代からこれらを原料とした一大製鉄基地があり、幾多の製鉄伝説が残る地である。





奥羽山脈 和賀仙人周辺

一方 北上(和賀)で北上川に流れ込む和賀川に沿って西の奥羽山地へ分け入る和賀



仙人峠一帯もまた鉄や銅などの鉱脈が走る日本有数の資源地帯で金・銅・鉄(赤鉄鉱・黄鉄鉱)を産出する。

和賀仙人峠の事を知ったのはつい最近。平泉で栄華を極めた奥州藤原氏の通商路「藤原秀衡古道」について書いた新書で。

奥羽山脈焼石岳と和賀岳の間から流れ出る和賀川に沿って奥羽山脈に分け入る峠道 今では北上線と秋田自動車道路が通る山中に鉄鉱山とそこに和賀仙人峠の名がつけられていた。

古代蝦夷の時代からの鉄の通商路調べれば調べるほど 面白い所である。

知っているようで知らなかった奥州・蝦夷の世界でした。

古代蝦夷の支配する「和賀」[奥羽山中を流れ下ってきた和賀川が北上川に合流する現在の北上市周辺]は大和との戦いの最前線「胆沢」の後方拠点。

奥羽山脈から産出される鉄をベースに武器などの製造拠点・補給基地の役割を果たしていたという。

和賀からこの奥羽山脈越の仙人峠を越えると出羽の横手へ。

そこから海岸地帯の秋田・能代と出羽の鉄の生産地をとおり蝦夷貿易の玄関口津軽・十三湊へと続く道は古代からの蝦夷の重要通商路。

この道は奥羽山脈を背にその東西の陸奥・出羽に広がる蝦夷の心臓部をつらぬき、蝦夷の最大の武器「蕨手刀」など主要交易品である「和鉄」の通商路として繁栄を極める蝦夷の生命線「蝦夷 和鉄の道」であったに違いない。

北上川をセンターに東西にある北上山地・奥羽山脈それぞれにある「仙人峠」付近は古代から現在に至るまで 鉄などの鉱物資源の宝庫。古代から「和鉄の道」が通っていたに違いない。



和賀仙人峠周辺 秀衡古道と周辺の鉱山

- 参考 ◆ 「蝦夷の鉄・餅鐵を訪ねて -北上山系 釜石・大槌町-」
- ◆ 古代 出羽国 秋田 和鉄の道を訪ねて
 - ◆ 佐藤清忠著「ヒタカミの鬼 -和我の里- 」
 - ◆ PHP 文庫「秀衡古道」

2. 和賀仙人峠 に 古代蝦夷「和賀の鉄」に思いをはせて



蝦夷の刀・日本刀の原型となった「蕨手刀」 中世鎌倉時代の鍛冶加工図

この奥羽山脈の和鉄並びに鉱物資源の覇権をめぐる大和と蝦夷が対峙し、ある者は恭順を示し、また、幾多の戦闘ののち、蝦夷から大和の手にこの覇権が順次落ちてゆく。

阿倍比羅夫・坂上田村麻呂らの奥州征伐 蝦夷征伐といわれるが、その本質は蝦夷の支配する鉱物資源の覇権をめぐる「和鉄の道」での戦いだったともいえる。

中央政権の支配が強まるにつれ、 蝦夷は俘囚として中央政権に組み込まれてゆくが、蝦夷の後継者安部氏が鉄の覇権をかけて 出羽の豪族清原氏と争い（前九年の役）さらに、清原氏の内紛後三年の役を経て、奥州藤原氏がこの東北地方を治めることになる。

これらの戦いもまた 蝦夷を束ねる出羽・陸奥の豪族間の戦いと同時に奥羽山脈に眠る豊富な鉱物資源の覇権をめぐる争だったとも言われている。

これらの戦いの中で敗れた蝦夷・俘囚の出羽鍛冶・舞草鍛冶など優秀な奥州の鉄の工人が都や西国に連れてゆかれ、その後の西国での和鉄生産 日本刀に代表される鍛冶加工の発展を担って行く。

このように古代奥羽山脈の東西を結ぶ「和鉄の道」はその後 日本各地の鉄生産・鍛冶加工にかかわる重要な役割を果たしていったと考えられ、「金売り吉次」の伝説もこれらの中から生まれた。また 奥羽山脈の鉱物資源の覇権を握った奥州藤原氏は平泉を本拠として栄華を極め、平泉から奥羽山脈を越える通称路はその後も奥州の主要通商路として益々繁栄する。



平泉から北上市で和賀川にそって 奥羽山脈に分け入り、和賀仙人峠を越えて横手に至る道は後三年の役の後、奥州の蝦夷支配ならびに奥州の鉱物資源の覇権を握った奥州藤原氏の主要通商路 「秀衡古道」とよばれ、繁栄を極めた。

その後も この仙人峠付近の鉱物資源の主要通商路としてとして今に名を残している

また この仙人峠付近の鉱物資源は古くは蝦夷・平安の古代から中世・江戸時代をへて、現在にいたるまで採掘が続けられてきた。

いわゆる奥羽山脈を貫く黒鉱脈ベルトに位置し、まさに日本の鉱物資源産出の役割を担って来た。そういう意味でも明治の洋式高炉が建てられた東の北上山地の仙人峠と双壁である。



黒鉄ベルト地帯が走る 仙人峠近傍と鉄山群 黒鉄脈走る奥羽山脈 和賀仙人鉄山から産出した赤鉄鉱
日本資源産出マップ 秋田大学 鉄業博物館 展示より

3. まだ雪深い早春 横手から北上線で和賀仙人を越えて北上(和賀)へ — 横手 walk & 北上線 和賀仙人越 —



横手川と横手市 北上線 和賀仙人付近 山中のフェロアロイ工場 和賀仙人鉄山産出赤鉄鉱

昨年秋、釜石線に乗って東の仙人峠を越しましたが、今回は西の仙人峠越え
秋田へ出かけた帰りに横手から北上へ通ずる北上線に乗ってこの和賀仙人峠を越える
山の斜面に沿って、雪の壁の中を走る一筋の鉄路 よくまあ こんなところに鉄路を・・・というのが印象でした。

3.1. 横手の街で 2003. 3. 15.



横手駅前 「かまくら」の像 2003. 3. 15.

午後 秋田を出発して 秋田の大河 雄物川をちらちら見ながら 雪の秋田平野を突っ走って横手に入る。横手市に入る手前の雪野原の丘陵地に「三年の役」駅。この丘陵地にかつての金沢城(金沢柵)があり 線路に沿って 後三年の役の合戦を描いた大きな立て看板が立っている。



古代 蝦夷の俘囚長となった出羽の清原氏の内紛の中、陸奥安部氏の流れくむ奥州藤原氏が勝ち、栄華を極めてゆくスタートとなった古戦場である。

【 後三年の役 と 金沢城 インターネットより 】

すっぽりと雪に被われた野原であるが、中央政権が 蝦夷支配を強めるために築いた金沢柵。そこを本拠として出羽・陸奥の俘囚長として蝦夷を支配した清原氏。

出羽蝦夷の郷の真っ只中にある。

そんなことを考えている間に横手の駅へ汽車はすべりこんだ。もう 雪が消えて「かまくら」のイメージはない。



雪の秋田平野

山深い横手の待ちを訪ねるのは初めて。

出来れば「かまくら」の時に訪れたかったのですが、三年ながらダメ。でも 駅前の「かまくら」の像が迎えてくれる。お目当ての奥羽山脈越えの北上線の出発まで約1時間ほど待たねばならない。



秋田平野を貫く雄物川

雪横手は 東に奥羽山脈 西に出羽山地に挟まれ中央に雄物川が流れる盆地で、通商の要衝として 古代 金沢柵が置かれ、朝廷 出羽蝦夷支配の根拠地になったところ。その後も雄物川海運の物資集散地として発展。

街の中心部には雄勝川に注ぐ横手川が流れ、川の後背の丘に横手城の天守閣が見える。

また、金沢柵が置かれた場所は街の北の外れ 覆う線で通過してきた後三年の役駅の背後の丘陵地。

今回はゆけず。

の中をゆっくり歩く。



横手川と横手城



横手市の大通 2003. 3. 15.

周囲を山で囲まれた横手盆地 東側には今日越える奥羽山脈が連なり、南側には出羽山地が海岸部まででばっている。 午後の太陽の明るい日ざしの中、雪国の暗さはない。駅前の商店街から一筋はいるとまだ昔の古い商店の家並みが連なり、各家々の玄関口が二重になっているのが、雪深さを思い出させる。



懐かしい看板などと一緒に二重になった玄関が並ぶ 横手市の市街

商店のガラスに「アニメ映画『アテルイ』の前売り券あります」の張り紙があちこちにある。 やっぱり ここは古き蝦夷の根拠地。 蝦夷に対する親しみをこの張り紙に見ました。

後三年の役駅前には雪の中に合戦の絵のおおきな立看板がたっていたが今回は行けなかった金沢柵。 出羽 蝦夷の俘囚長 清原氏の本拠。

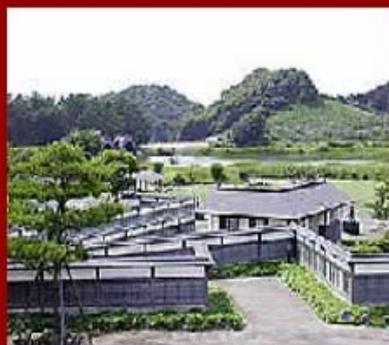
後三年の役ではここを舞台に源義家の支援を受けた奥州藤原氏が清原氏を追い詰め、清原氏は金沢城で滅亡する。 奥羽本線の後三年の役駅のすぐ前から広がる丘陵地。 今 この古戦場は「平安の風わたる公園」として整備されているが、一面の雪野原。

次回には一度金沢柵まで行ってみようと思っている。

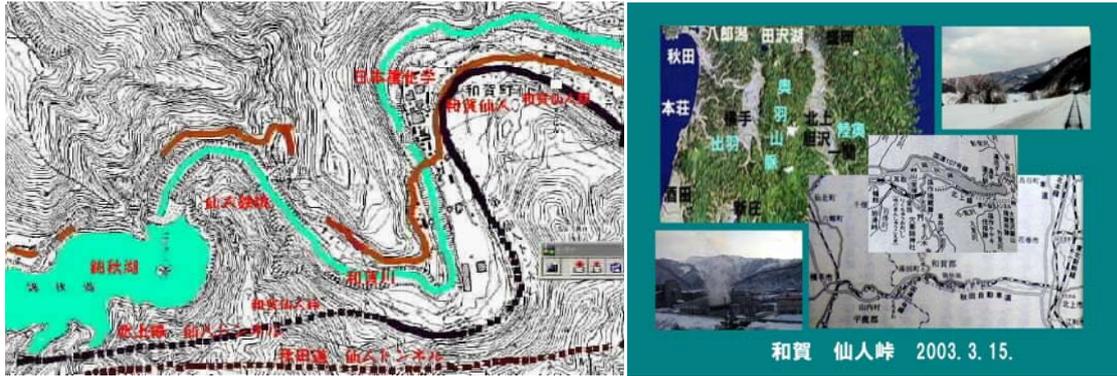
金沢柵そばの「平安の風わたる公園」

internet より採取

後三年の役の主戦場。清原直衡死後、清原一族が内紛を深めていくなか清原清衡は異夫弟の家衡に妻子を殺害され、清原一族をまっぴらつに分けた戦争に発展していく。そのおりに家衡がこもったのが、ここ、金沢柵である。天然の要塞であるこの柵に手を焼いた清原清衡と陸奥守源義家の連合軍は兵糧攻めで、この柵をおとし、後三年の役に勝利する。難攻不落の柵である。本丸付近には兜八幡神社がある。また周辺には義家が雇の列の乱れから敵方の兵が潜んでいることを見破った場所という西沼がある。この周辺は「平安の風わたる公園」として整備されており、清原清衡、清原家衡、清原武衡、源義家のブロンズ像などがある。



3.2. 北上線 で 和賀仙人峠 越



約1時間ほど街を歩いて 真っ暗になる前に仙人峠を越えることを期待して北上線4時発北上行に乗り込みました。

山形県新庄・秋田湯沢方面から秋田角館方面から判らないが、カメラを片手に持った人がやたらに多く乗り込んできて、みんな場所取りをやっている。

そんなこの北上線の山越えの鉄道の雪景色は有名なのか・・・?? と期待が膨らむ。

街を出るとさすがに雪野原が広がり、雪の奥羽山脈の山懐へ向って汽車がはいてゆく。

横手から奥羽山中に入り、和賀岳の麓 湯田高原を通り、今はダム湖になった黒鉱ベルトの山岳地帯和賀仙人を抜け、一気に山を下り北上市に至る約1時間30分の路線。

雪の山間を約30分程で雪の中にすっぽり埋まったほっとゆだ駅。

和賀岳の麓に広がる高原の中心駅で湯田温泉郷の中心で駅舎に温泉があることから多くの人々が下車する。

ここから先は奥羽山脈の鉱山地帯。

雪に埋まった山と山の狭い谷間のダム湖の縁雪壁に沿ってつけられた一筋の鉄道を汽車が進む。よくまあ こんなところに鉄道がつけられているというのが実感であるが、すばらしい雪景色が続く。



錦秋湖周辺 2003. 3. 15.

カメラ片手に先頭部に大人も子供もみんな群がって雪を掻き分け進む奥羽越えの写真をとっている。ほどなく雪の中にすっぽり埋まった「ゆだ錦秋湖」駅。家々がすっぽり雪に埋まり、山奥の郷であることがわかる。次の駅がよいよ「和賀仙人」駅。

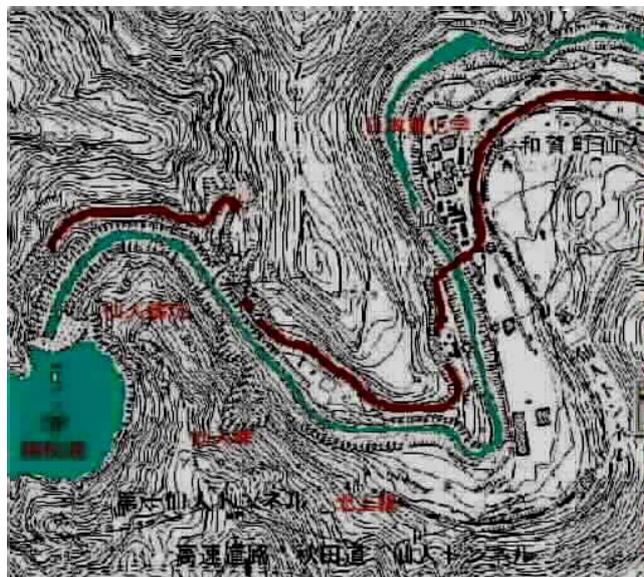


北上線 鉄道 和賀仙人周辺 2003. 3. 15.

汽車は雪の中を山肌にへばりつきながら いくつかのトンネルを抜けて山を登ってゆく。幾つかのトンネルを抜けた後、山中に山肌にへばり付いて建つ工場が前方に見える。今も操業している鉱山であろう。

いよいよ 和賀仙人峠周辺に至ったことをこの風景が示してくれる。幾つか山肌を巻きトンネルを抜けると四方

を高い山に囲まれた山中に不意に大きな工場群が現れた。日本重化学工業・の南岩手事業所のような。



和賀仙人周辺 日本重化学工業の工場群 2003. 3. 15.

和賀仙人 山中に忽然と現れる工場群

厳しいビジネス環境にさらされているようですが、発電所等を持つ今も現役のフェロアロイの工場群である。(後で調べて判ったのですが、この工場では現在アルミ化成箔が主力で フェロアロイの工場は海外関連会社にシフトしているようだ)

かつては仙人峠周辺から産出する鉄資源を元にフェロアロイを生産し、日本の製鉄会社に供給するトップメーカーである。

日本古代から「鉄」を供給した「和賀の鉄」がこの雪深い奥羽山中仙人峠の鉄。福島県原町の行方金沢製鉄遺跡群が古代中央政権の武器庫といわれているが、対峙した蝦夷もこの和賀を中心とした奥羽山脈の山中に鉄資源とそれを加工する兵器庫を持っていた事が対抗できた所以であろう。この山の険しさが抵抗の支えになったことがうかがえる。



奥羽山脈 黒鉄鉱ベルト地帯が走る



和賀仙人鉱山から産出した赤鉄鉱

その和賀仙人峠周辺が今も資源地帯の現役であることにもビックリ。

日本資源産出マップ

秋田大学 鉱業博物館 展示より

つい先程 秋田大鉱業博物館で勉強した日本の黒鉄鉱脈の優秀性 そしてその黒鉄鉱脈が貫く奥羽山脈と秋田の鉱物資源にも思いをめぐらした。

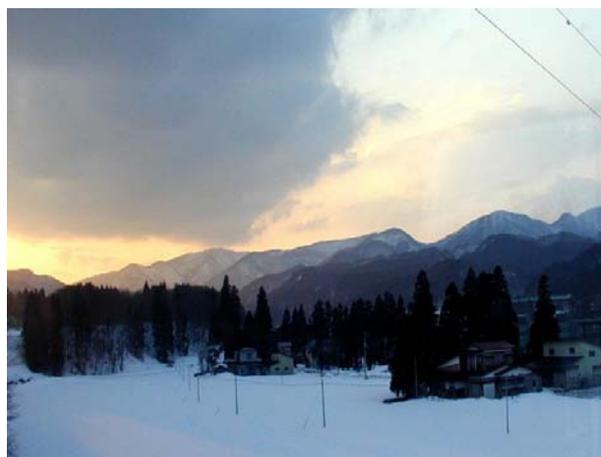
仙人峠を越えて和賀の平野部に汽車が入ると、そこは 古代 蝦夷の本拠地 和賀。雪原の背には和賀川越しに今越えてきた奥羽山脈の峰々が夕日に染まって本当にすばらしい景色。



和賀川越しに仙人峠を望む北上市より 2003. 3. 15.

古代蝦夷の時代も同じ風景があったろう。自分は東北人ではないが、東北の人達が愛する蝦夷のリーダー「アテルイ」。そして蝦夷の人達への仲間意識

そんな中に 自分も入ったような気分で覆う山脈に沈む夕日に見とれていました。横手から約1.5時間。北上駅に到着したときには 外はもう真っ暗になっていました。



北上線の車窓より
奥羽山脈に沈む夕日を眺めながら

2003. 3. 15. M. Nakanishi

奥州 蝦夷の心臓部を貫く和鉄の道
-北上(和賀)仙人峠越-

2003. 3. 15.

【完】